

5月30日(土) A会場 2階 さくら東 (150名収容)

8:30	受付		
9:00 A-1	植民地期インドのパンジャブ学派 —イギリス社会人類学界のパイオニアとして—	三瀬 利之	
9:20 A-2	現代ブータンにおけるナショナリズムと環境主義 —自然環境保護をめぐる文化の政治—	宮本 万里	京都大学
9:40 A-3	宝石というモノの価格を操作する商人の試み —カトマンズの観光市場タメルにおける宝飾商人の事例から—	渡部 瑞希	一橋大学
10:05 A-4	インド・マハーラーシュトラ州におけるタマーシャー劇の現代的変容 —民俗芸能から公共文化へ—	飯田 玲子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
10:25 A-5	道具的キリスト教 —ネパールにおけるキリスト教について—	丹羽 充	一橋大学大学院
10:45 A-6	セクト化された仏教実践 —チベット仏教の一セクトを事例に—	山本 達也	京都大学大学院
11:10 A-7	ヘルスツーリズムにみる「癒し」の商品化と消費化 —観光資源としての伝統医療—	松尾 瑞穂	日本学術振興会
11:30 A-8	去勢した者たちの情交のあり方 —インド北西部グジャラートのヒジュラの事例から—	國弘 暁子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科研究科
11:50 A-9	身体に根づいた声、紙の上の知識 —モロッコ、シュルーフ社会における出産とオーラリティー—	井家 晴子	日本学術振興会

12:10-13:10	昼食		
13:10 A-10	Fieldnet: フィールドワーカーをつなぐウェブサイト構築 —フィールド情報の共有と超域的研究の可能性をめざす—	椎野 若菜	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
13:30 A-11	生態人類学と「障害の社会モデル」	亀井 伸孝	東京外国語大学
13:50 A-12	人類学とその環境とのバウンダリーワークをめぐる —エスノグラフィの実務的応用を中心に—	伊藤 泰信	北陸先端科学技術大学院大学
14:15 A-13	フェアトレードという交換 —ベリーズのカカオ生産者組合の事例から—	鈴木 紀	国立民族学博物館
14:35 A-14	フィールド経験の仮想現実空間化 —ツールとメソッド—	益田 岳	京都大学東南アジア研究所

5月30日(土) B会場 2階 さくら西 (100名収容)

8:30		受付		
9:00	B-1	現代ペルーにおける住民主導の遺跡保護 ―ペルー北部山地の2つの地区の比較から―	山本 睦	総合研究大学院大学
9:20	B-2	先史アンデスにおける国家形成と儀礼 ―ワリのD字形建築をめぐって―	土井 正樹	京都文教大学
9:40	B-3	アンデス文明形成期における神殿と人間活動	鶴見 英成	埼玉大学
10:05 12:10	【分科会】 もの、動き、アッサンブラージュ ―人間中心主義を超えて― 【代表者】 内山田 康			
	B-4	趣旨説明	内山田 康	筑波大学
	B-5	儀礼的な逸脱? 創造的な進化?	内山田 康	筑波大学
	B-6	身体と「モノ」の詩の風景	山口 恵里子	筑波大学
	B-7	ずれる、遅れる農作業	秋山 晶子	京都大学
	B-8	バリ島の仮面制作におけるモノと人	吉田 ゆか子	筑波大学
	B-9	過剰な感覚が呼び覚ますもの	風間 計博	筑波大学

12:10-13:10 昼食

13:10 14:55	【分科会】 ミステリーの人類学 【代表者】 東 賢太朗			
	B-10	趣旨説明	東 賢太朗	宮崎公立大学
	B-11	リアルな謎のリアリティ ―ミステリーの人類学のための試論―	東 賢太朗	宮崎公立大学
	B-12	人間は弱い、だから面白い	片岡 樹	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
	B-13	芸芸としての占い ―インドの占い師の事例より―	岩谷 彩子	広島大学
	B-14	アヴァンチュール・ミステリウーズ ―公然の秘密、フィクション、再び公然の秘密―	神谷 良法	名古屋大学大学院文学研究科

5月30日(土) C会場 2階 会議室A・B (72名収容)

8:30	受付		
9:00 C-1	人類学的聖典論の構築にむけて —ムスリム社会のフィールドから—	小杉 麻李亜	日本学術振興会
9:20 C-2	〔発表辞退〕 宗教法と日常のあいだ —エジプト「イスラーム電話」を事例として—	嶺崎 寛子	日本学術振興会
9:40 C-3	パフォーマンスと実践される場の関係性 —トルコ・都市におけるアレヴィーのセマー・パフォーマンスから—	米山 知子	神戸学院大学 地域研究センター
10:05 12:10	【分科会】 都市のオブデュラシー 【代表者】 木村 周平		
C-4	趣旨説明	木村 周平	京都大学東南アジア研究所
C-5	ハノイ・Long Bien インターチェンジとく統合>	寺戸 宏嗣	東京大学大学院
C-6	居座る人々／腰かける人々 —マレーシアにおける都市集落の事例より—	上田 達	摂南大学外国語学部
C-7	モンゴル、ウランバートル市における都市計画と土地私有化	西垣 有	大阪大学
C-8	トルコ、イスタンブールの耐震都市計画をめぐる時間	木村 周平	京都大学東南アジア研究所
C-9	時を超える空間 —欧州都市の理念と幻想	織田 竜也	慶應義塾大学

12:10-13:10	昼食		
13:10 15:15	【分科会】 地域SNSの現場から —ローカルネットワークとローカルコミュニティを再考する— 【代表者】 杉本 星子		
C-10	趣旨説明	杉本 星子	京都文教大学人間学部
C-11	地域SNSによる「地域」の再構築	杉本 星子	京都文教大学人間学部
C-12	福祉をつむぐ音楽ネットワーク	馬場 雄司	京都文教大学人間学部
C-13	地域SNSからコミュニティ概念を再考する	原 知章	静岡大学人文学部
C-14	社会理論としてのコミュニティネットワーク —社会的ネットワーク分析(SNA)と文化人類学—	木村 忠正	東京大学大学院
15:15 17:20	【分科会】 アジアの近代化とリプロダクションの変容 【代表者】 松岡 悦子		
C-16	趣旨説明	松岡 悦子	奈良女子大学
C-17	インドネシアにおけるリプロダクションの歴史的変遷・現状と課題 —西ジャワ州、西カリマンタン州のフィールド調査結果の分析・考察—	宮菌 夏美	鹿児島大学
C-18	出産の医療化に向き合うローカルな実践 —ネパールの事例から—	幅崎 麻紀子	北海道大学大学院
C-19	ラオス都市部における産後養生と「ピッカム」	嶋澤 恭子	神戸市立看護大学
C-20	中国における出産と計画生育の歴史と現状	小浜 正子	日本大学

5月30日(土) D会場 2階 会議室C・D (72名収容)

8:30	受付		
9:00 D-1	[発表辞退] モンゴル国における家族内の労働役割分担と父子・母子関係 — 田中 華子	名古屋大学	家庭における父の存在感の希薄化要因—
9:20 D-2	少数民族地域におけるバイリンガル教育に関する一考察 —中国・内モンゴル ア ラタ	広島大学大学院	自治区の事例から—
9:40 D-3	モンゴル・ウランバートル市における共有地の囲い込みについて	滝口 良	北海道大学文学研究科・日本学術振興会特別研究員DC
10:05 D-4	一妻多夫婚のメカニズム——妻から見た一妻多夫婚 ——一妻多夫婚の妻の 六鹿 桂子	名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士後期課程	出身地からの考察—
10:25 D-5	中国西南モソ人の母系社会における成人儀礼 —儀式の過程と論理に関する 金 龍哲	神奈川県立保健福祉大学	教育学的考察—
10:45 D-6	中国雲南省ナシ族の親族組織と土司の村落支配	岡 晋	日本学術振興会
11:10 D-7	[発表辞退] 中国四川大地震後の羌族と羌族民族文化資源の復興	松岡 正子	愛知大学
11:30 D-8	風水闘争の人類学的研究 —西南中国の少数民族トン族の事例から—	兼重 努	滋賀医科大学
11:50 D-9	風水文化の＜空間化＞現象 —客家地区における環境選択術の変遷—	河合 洋尚	嘉応大学客家研究科

12:10-13:10	昼食		
13:10 D-10	歌掛けは観光化できるか —山歌の場をめぐる—	梶丸 岳	京都大学大学院人間・環境学研究科
13:30 D-11	消費されるものとしての世界文化遺産 —中国福建省における「福建土楼」と 小林 宏至	首都大学東京大学院	視覚的記号の創出—
13:50 D-12	1940年代から1960年代にかけて自ら帰国を選択した東南アジア帰国華僑 — 奈倉 京子	京都文教大学	厦門における「帰僑之家」の調査から—
14:15 D-13	中国朝鮮族 —移動のダイナミックス—	安 成浩	神戸大学
14:35 D-14	エスニシティの視覚表象 —在米、在日、在露コリアン エスニック・フェスティ パホモフ オレグ	京都大学人間環境学部	バル比較研究—
14:55 D-15	急変する中国朝鮮族社会と唐辛子 —出稼ぎ者の増加がもたらした人々の生 小坂 みゆき	北海道大学大学院文学研究科	活の変化—
15:15 D-16	韓国の養子縁組に見る「理想の家族」の作り方	中村 八重	世明大学
15:40 D-17	労働契約としての結婚 —台湾のブローカー婚の事例より—	横田 祥子	東京都立大学大学院
16:00 D-18	先住民族運動言説と現地社会 —台湾・オーストロネシア語族系住民による地 石垣 直	日本学術振興会	図作成運動の事例から—
16:20 D-19	植民地期台湾における「社会教育」と女性 —歴史人類学の視点から—	宮崎 聖子	福岡女子大学
16:40 D-20	台湾東部と先島諸島にみる越境 —観光にみる相互理解の差異—	上水流 久彦	県立広島大学

5月30日(土) E会場 3階 会議室1・2 (72名収容)

8:30	受付			
9:00 E-1	ヨーロッパ人のスーフィー実践 —英国グラストンベリーのナクシャバンディ教団を事例として—	河西 瑛里子	京都大学大学院	
9:20 E-2	ポスト社会主義ルーマニアにおける土地の利用と意味 —トランシルヴァニアの—山村の事例より—	杉本 敦	東北大学大学院文学研究科	
9:40 E-3	公と私のはざまにある遺産化プロセス —スペイン・ガリシアにおける「地域文化コーディネーター」の視点から—	竹中 宏子	早稲田大学	
10:05 12:10	【分科会】ヨーロッパのマイノリティ —周辺から照射するEU社会— 【代表者】 石川 真作			
E-4	趣旨説明	石川 真作	京都文教大学	
E-5	「移民国家」ドイツの社会空間 —「並行社会」と「統合」の狭間で—	石川 真作	京都文教大学	
E-6	オーストリアにおけるロマ民族の自主的自助組織の活動とその動向	滝口 幸子	お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 比較社会文化学専攻 博士課程	
E-7	エンパイア・ウインドラッシュ号からオリンピックへ —イギリスにおけるエスニック・マイノリティの60 年—	木村 葉子	名古屋大学大学院文学研究科 比較人文学講座	
E-8	フランスと「ピエ・ノワール」 —旧フランス領アルジェリアをめぐる過去とマイノリティの記憶—	足立 綾	東京大学大学院 総合文化研究科 地域文化研究専攻 博士課程	
E-9	フランスでの移民第二世代と「市民」との境界 —beur mouvement 以降を中心に—	渋谷 努	東北大学 東北アジア研究センター	

12:10-13:10	昼食			
13:10 E-10	身体と制度のキアスム —イタリアの精神医療実践からメルロ＝ポンティの「制度化」概念を捉えなおす—	松嶋 健	京都大学	
13:30 E-11	村落部アソシエーションの再編成にみる「市民社会」の文脈 —ポスト社会主義期スロヴァキアの事例より—	神原 ゆうこ	東京大学大学院総合文化研究科	
13:50 E-12	共同性の構築とソーシャル概念	森 明子	国立民族学博物館	
14:15 E-13	使えないカネ —ハイパーインフレーション下のジンバブエにおける通貨の使われ方—	早川 真悠	大阪大学大学院人間科学研究科	
14:35 E-14	健康保険の入り方 —ガーナ南部における商品としての健康の複数性をめぐって—	浜田 明範	一橋大学社会学研究科	
14:55 E-15	「明日の私」を葬る —エチオピアの都市住民による葬儀講活動の経験—	西 真如	京都大学東南アジア研究所	
15:15 E-16	〈養取・養育〉における流動的・持続的な相互扶助 —北部ナイジェリア、ハウサ社会のリコを事例に—	梅津 綾子	名古屋大学大学院文学研究科・日本学術振興会特別研究員	
15:40 E-17	中央アンデス高地における生業活動の象徴性 —牧畜文化研究からの視点—	若林 大我	東京大学大学院 総合文化研究科 博士課程	
16:00 E-18	祭礼を支える人びと —アンデス農民による祭りのためのネットワーク構築の様態—	八木 百合子	総合研究大学院大学	
16:20 E-19	メキシコオアハカ州中央谷の民芸品 —80年代以降の観光による生産・価格への影響—	平原 かおり	メキシコ国立自治大学	
16:40 E-20	映像メディア環境の開発 —応用映像人類学の試み—	分藤 大翼	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	

5月30日(土) F会場 3階 会議室3・4 (72名収容)

8:30	受付		
9:00 F-1	タイ北部の山地におけるモン族の豚飼養文化	中井 信介	総合研究大学院大学・国立民族学博物館
9:20 F-2	エコ・ガバメンタリティと共同体 —環境と資源管理の人類学に関する予備的考察—	関 恒樹	広島大学大学院国際協力研究科
9:40 F-3	国立公園が創りだした社会空間 —マレーシア・サラワク州グヌン・ムル国立公園周辺のブラワンとブナンを事例に—	佐久間 香子	北海道大学大学院文学研究科
10:05 F-4	インドネシア・ブトン島ワブラ社会における巡礼、農事暦儀礼と「真実の歴史」 —生きられる歴史語りの人類学に向けて—	山口 裕子	吉備国際大学
10:25 F-5	「文化」を消費する —インドネシア共和国ランブン州における事例から—	金子 正徳	京都文教大学
10:45 F-6	都市においてアダットが発現するとき —インドネシア、メダン市の土地紛争にみるポスト・スハルト期の法と社会—	高野 さやか	東京大学大学院
11:10 F-7	「アーニス」という武術の形成 —実践形態の分類と集団意識の観点から—	大久保 豊	広島大学大学院総合科学研究科
11:30 F-8	「彼らの音楽」から「我々の音楽」へ —インドネシア・バリ島における鉄製ガムラン「スロンディン」の普及にみる民族意識の変化—	野澤 暁子	名古屋大学
11:50 F-9	バリ島のガムラン演奏における演奏者の身体動作	増野 亜子	

12:10-13:10	昼食		
13:10 F-10	首都ビエンチャンを中心としたラオスの手織物 —市場化・国際化するラオス社会のなかの染織文化—	伊藤 渚	総合研究大学院大学
13:30 F-11	半製品が作る社会関係と自律的な労働過程 —ジャワ中部バティック労働者の事例—	佐藤 純子	東京大学大学院総合文化研究科 超域文化科学専攻文化人類学博士課程
13:50 F-12	フェアトレード生産組合への参加と暮らしの変容 —ラオス南部チャンパサック県バクソン郡、コーヒー栽培農村を事例として—	箕曲 在弘	早稲田大学大学院 文学研究科
14:15 F-13	関係性の中の子ども —カンボジア3つの地域における、子どもが生きる他者関係のクオリティ—	西田 季里	東京大学総合文化研究科
14:35 F-14	社会形成の場としての難民キャンプ、経由地としての難民キャンプ	久保 忠行	神戸大学大学院／日本学術振興会
14:55 F-15	タンザニア人交易人の東南アジアでの活動 —広州、香港、バンコクを比較して—	栗田 和明	立教大学
15:15 F-16	日系インドネシア人の労働移動 —親族ネットワークと福祉友の会の役割—	伊藤 雅俊	日本大学国際関係研究科博士後期課程
15:40 F-17	Our Temple, Our Past: A Hakka Community in Sarawak, Malaysia and their Social History	Elena Gregoria Chai	University Malaysia Sarawak (UNIMAS)
16:00 F-18	移動する、根を下ろす —マレーシアの華人家族の事例から—	櫻田 涼子	筑波大学大学院 人文社会科学研究科
16:20 F-19	前提としての保護 —文化遺産保護に関するユネスコの「国際基準」とその批判—	田中 英資	ANA総合研究所
16:40 F-20	文化遺産保存・活用における「現地」へのアプローチ —日本における写真展開催の事例から—	永吉 守	久留米工業高等専門学校 (非常勤講師・地理)

5月30日(土) G会場 3階 銀杏 (90名収容)

8:30

受付

- ・ 理事会
- ・ 評議会

12:10-13:10

昼食

13:10 G-10	[発表辞退] 東京花柳界の民族誌的研究	中岡 志保	広島大学
13:30 G-11	ホステスたちは何を売るのか ―「色」と「人間関係」のサービスの分析―	松田 さおり	宇都宮共和大学
13:50 G-12	SMプレイという「遊び」 ―ある性風俗店を事例として―	熊田 陽子	お茶の水女子大学
14:15 G-13	日本における人権実践のエスノグラフィ ―ドメスティック・バイオレンス被害者 支援を例として―	桑島 薫	東京大学
14:35 G-14	[発表辞退] 開業助産婦/師の戦後 ―ライフヒストリー・インタビューをもとに ―	伊賀 みどり	
14:55 G-15	[発表辞退] 共通プール資源としての子ども ―秋田市における幼稚園市場の Wood Donald C. 縮小と社会変化―		秋田大学医学部
15:15 G-16	大人のモラル、子どものリアル ―南アフリカ映画「ツォツィ」のR指定論争をめぐる「話の通じなさ」―	海野 るみ	お茶の水女子大学
15:40 G-17	人類の認知進化と貨幣の起源 ―「記憶」「歴史」「貨幣」をつなぐもの―	竹川 大介	北九州市立大学
16:00 G-18	メラネシア・ダンス音楽の身体と「ワントク」への想像力 ―パプアニューギニア とソロモン諸島のグラスルーツ音楽の文化装置―	諏訪 淳一郎	弘前大学
16:20 G-19	パプアニューギニア、アベラム人の建物と社会関係	新本 万里子	広島大学大学院
16:40 G-20	パプアニューギニアにおける法主体の構築 ―訴訟を支える(サポート)エージェントの実践から―	馬場 淳	日本学術振興会特別研究員／東京外国語大学

5月30日(土) H会場 2階 小ホール (200名収容)

8:30	受付		
10:05 12:10	【分科会】 旧南洋群島における日本統治経験 —文化的同化政策と現地住民— 【代表者】 飯高 伸五		
H-4	趣旨説明	飯高 伸五	日本学術振興会／筑波大学
H-5	価値観の植民地支配はどのように経験されたか —日本統治時代をめぐるパラオ人高齢者の語りから—	三田 牧	国立民族学博物館
H-6	憧憬としての青年団 —マーシャル社会における「クミ」組織の形成と限界—	黒崎 岳大	外務省アジア大洋州局大洋州課
H-7	年齢集団と青年団の節合 —パラオ人の経験の次元からみた勤労奉仕—	飯高 伸五	日本学術振興会／筑波大学
H-8	日本文化の受容と民俗芸能の発展 —ミクロネシアの行進踊りに節合された近代—	小西 潤子	静岡大学
H-9	国家アイデンティティとパラオ・ナショナリズム —日本統治経験の現代的意味—	三田 貴	大阪大学グローバルコラボレーションセンター

12:10-13:10	昼食		
13:10 15:15	【分科会】 技術に関する映像人類学作品 【代表者】 南出 和余		
H-10	趣旨説明	南出 和余	日本学術振興会特別研究員
H-11	カワソ漁 —南佐久・千曲川上流部に於ける伝統漁法—	長島 節五	日本映像民俗学の会
H-12	木材加工の技術 —内装材加工の現場から—	鈴木 遥	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
H-13	職人	逢 軍 中村 圭	びわこ学院大学 同志社大学
H-14	ナルサン	森田 剛光	名古屋大学大学院文学研究科
15:15 17:20	【分科会】 儀礼に関する映像人類学作品 【代表者】 村尾 静二		
H-16	趣旨説明	村尾 静二	総合研究大学院大学葉山高等研究センター
H-17	食べさせること、生きること —イスラエルに生きる、あるアラブ人キリスト教徒—	菅瀬 晶子	総合研究大学院大学葉山高等研究センター
H-18	お墓がいらない人たち —変貌する日本の葬送儀礼—	金 セツピョル	甲南大学
H-19	アフルー —上ビルマ通過儀礼で顕在化する秩序—	飯國 有佳子	国立民族学博物館
H-20	もうひとつのラマダン —ベトナム中南部に暮らすチャム・パニのラムワン儀礼—	吉本 康子	国立民族学博物館
H-21	皆月山王祭 —協働行為としてヤマ引き—	岩谷 洋史 川村 清志	総合地球環境学研究所 札幌大学

5月31日(日) A会場 2階 さくら東 (150名収容)

8:30	受付		
9:00 A-22	村落と聖地の歴史の変遷 —沖縄県北部X地区の事例から—	吉田 佳世	首都大学東京大学院 人文科学研究科 博士後期課程
9:20 A-23	外部者参加による伝統祭事の活性化	堂下 恵	金沢星稜大学
9:40 A-24	祭礼集団と内外の葛藤 —浅草寺本尊示現会と三社祭の変容から—	陳 珏勲	台湾大学 人類学科 博士課程
10:05 12:10	【分科会】 越境する宗教 —宗教的「他者」はどのように「他者」でなくなるか— 【代表者】 松岡 秀明		
A-25	趣旨説明	松岡 秀明	淑徳大学
A-26	宗教間の「越境」と宗教実践の様式 —現代北インドにおける「改宗仏教徒」の事例から—	舟橋 健太	日本女子大学
A-27	台湾先住民タウ族のキリスト教	中生 勝美	桜美林大学
A-28	アフリカ系アメリカ人の社会宗教運動にみる境界と越境 —西アフリカの神々、小池 郁子 オリシャを崇拝するコミュニティの実践から—		京都大学 人文科学研究所
A-29	霊のヒエラルキー —ブラジル世界救世教の非日系信者の宗教的アイデンティティ—	松岡 秀明	淑徳大学

12:10-13:10	昼食
13:10-15:15	総会・受賞講演(1階 大ホール)

15:20 17:25	【分科会】 オーストラリア先住民研究 —国家・伝統・コミュニティと切り結ぶ日 常的实践— 【代表者】 大野 あきこ		
A-31	趣旨説明	山内 由理子	多摩大学
A-32	オーストラリア南東部先住民Yorta Yortaの土地権運動をめぐる多元的権威の所在	友永 雄吾	総合研究大学院大学
A-33	先住権原時代の妖術的思考 —「白人入植集中地域」のG集団における再編のメカニズム—	大野 あきこ	国立民族学博物館
A-34	「あの人は本当はアボリジニではない」 —シドニー南西部郊外のアボリジニにおけるアイデンティティにまつわるディスコースと社会関係—	山内 由理子	多摩大学
A-35	多文化主義における「先住民文化」への都市アボリジニの対応 —アデレードのガーナ文化学習の事例から—	栗田 梨津子	広島大学大学院
A-36	オーストラリア先住民への「介入」政策	飯嶋 秀治	九州大学大学院

5月31日(日) B会場 2階 さくら西 (100名収容)

8:30	受付		
9:00 B-22	〔発表辞退〕アイヌの祖霊祭祀の変容 —1986-2006—	百瀬 響	北海道教育大学札幌校
9:20 B-23	北海道の学校における「アイヌ教育」の変遷 —札幌市教育委員会作成の教職員用手引きを中心に—	品田 早苗	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院
9:40 B-24	対話と抵抗 —首都圏に生きるアイヌ民族のライフストーリーから—	関口 由彦	成城大学民俗学研究所
10:05 B-25	日本における中国音楽の受容 —二胡の伝承を事例として—	王 維	香川大学
10:25 B-26	1990年代以降のロシア極東から日本への女性移民 —彼女たちを取り巻く歴史・社会経済・ジェンダー状況の変化の考察—	ゴロウイナ クセーニヤ	東京大学大学院 総合文化研究科 超域文化科学専攻 文化人類学
10:45 B-27	在日ユダヤ人コミュニティの変遷 —正統派と女性への対応を中心として—	佐藤 泉	東洋学園大学
11:10 B-28	日系ブラジル人の子どもの健康をめぐる人びとの実践 —豊田市保見団地の事例から—	大谷 かかり	愛知県立大学大学院国際文化研究科 博士後期課程
11:30 B-29	〔発表辞退〕日本における「外国人高度人材」の受け入れに関するディスコースと就労実態の分析	村田 晶子	東京大学大学院工学系研究科
11:50 B-30	在日移民研究からみた応用人類学の問題点	永田 貴聖	立命館大学

12:10-13:10	昼食
13:10-15:15	総会・受賞講演(1階 大ホール)

15:20	【分科会】ポスト石油時代に向けた「なりわい」研究		
	【代表者】 縄田 浩志		
17:25			
B-31	趣旨説明	縄田 浩志	総合地球環境学研究所
B-32	乾燥熱帯沿岸域における「なりわい」と地域発展 —人類学的考察による地球社会の未来設計—	縄田 浩志	総合地球環境学研究所
B-33	スワヒリ海村キルワ島のマングローブ内海地域社会	中村 亮	総合地球環境学研究所
B-34	砂漠化と植林 —サハラ南縁地域の事例から—	石山 俊	総合地球環境学研究所
B-35	モンゴル牧畜民の農耕とその変容 —中国内モンゴル自治区ウーシン旗の事例から—	児玉 香菜子	千葉大学
B-36	チュニジア・ジェリド地方のレンガ建築とエコレンガ・プロジェクト —日本の技術協力の事例とその課題—	鷹木 恵子	桜美林大学・人文学系

5月31日(日) C会場 2階 会議室A・B (72名収容)

8:30	受付		
9:00 C-22	マフとラエラエの名称について —タヒチ島とボラボラ島の比較—	桑原 牧子	金城学院大学
9:20 C-23	「開発」のローカリゼーション —マーシャル諸島被ばくコミュニティの放射線汚染と再開発—	中原 聖乃	中京大学
9:40 C-24	文化共同体のパラダイムの中で混血は如何に位置づけられてきたか —ニューカレドニアにおける混血の表象と間文化性—	江戸 淳子	杏林大学
10:05 12:10	【分科会】 オセアニアの多文化的公共圏における親密圏離脱のイディオム 【代表者】 柄木田 康之		
C-25	趣旨説明	柄木田 康之	宇都宮大学
C-26	交易ネットワークと離島カテゴリー —ミクロネシア連邦ヤップ州の島嶼間関係—	柄木田 康之	宇都宮大学
C-27	国家からの「離脱」 —ソロモン諸島における開発的公共圏形成のイディオム—	関根 久雄	筑波大学
C-28	サモアにおける公衆衛生(Public Health)と公共圏(Public Spheres)	倉田 誠	神戸大学大学院
C-29	憑依の共有と教会ネットワーク —ソロモン諸島村落部における宗教的公共圏の可能性—	石森 大知	日本学術振興会
C-30	民族化する国家と、離脱する人びと —フィジーのラム運動による対抗的公共圏—	丹羽 典生	国立民族学博物館

12:10-13:10	昼食
13:10-15:15	総会・受賞講演(1階 大ホール)

15:20 17:25	【分科会】 教育人類学 —オルタナティブの視点から— 【代表者】 藤田 真理子		
C-31	趣旨説明	藤田 真理子	広島大学
C-32	オルタナティブ教育と時のデザイン —現代アメリカにおけるアーミッシュという生き方—	鈴木 七美	国立民族学博物館
C-33	多文化社会におけるエイジングとライフロング・ラーニング —日系の人々が伝えるもの—	金本 伊津子	桃山学院大学
C-34	文化的多様性にむけての教育 —合衆国の博物館における学校・家庭・地域社会支援—	田川 泉	インディアナ・パーデュー大学
C-35	高等教育のユニバーサルデザイン化が変える大学教育	藤田 真理子	広島大学

5月31日(日) D会場 2階 会議室C・D (72名収容)

8:30		受付	
9:00	D-22	ミャオ(モン)族のスカートの素材・デザインの変化とその背景	宮脇 千絵 総合研究大学院大学
9:20	D-23	民族観光地域の工芸品販売にみられる女性の結びつき —広西チワン族自治 金 裕美 宇都宮大学 区トン族の事例をもとに—	
9:40	D-24	徳宏タイ族の言葉 —聴覚表象と日常行為からの考察—	伊藤 悟 総合研究大学院大学博士課程／ 日本学術振興会特別研究員DC2
10:05	D-25	都市再開発の中の少数民族集住地域 —中国・西安市の回族集住地域を事 今中 崇文 総合研究大学院大学 例として—	
10:25	D-26	「住民自治」の政治学 —中国西北部におけるモスク修復とコミュニティ再編の 澤井 充生 首都大学東京 事例から—	
10:45	D-27	上海における都市開発と新たなプロテスタント教会堂の形成 —宗教政策と都 村上 志保 立命館大学 市開発のはざまでの宗教空間の変化—	
11:10	D-28	現代中国における仏教寺院経営の変容 —閩東南地域の小規模な寺院を事 王 嵐 中国厦門大学 例として—	
11:30	D-29	ローカルな「馬祖」と中華としての「媽祖」 —中国黄海島嶼漁民の信仰と外部 緒方 宏海 東京大学大学院総合文化研究科 環境—	
11:50	D-30	〔発表辞退〕 ポークレール(de Beauclair,I)の少数民族調査 —貴州省・従江 田畑 久夫 昭和女子大学 県の「黒ミャオ」族調査を事例として—	麗澤大学
12:10-13:10		昼食	
13:10-15:15		総会・受賞講演(1階 大ホール)	

15:20	D-31	「民族識別」と博物館 —民族衣装展示を中心に—	謝 黎 放送大学非常勤講師
15:40	D-32	広東人の漢族意識と非漢族カテゴリー生成のメカニズム —珠江デルタの水 長沼 さやか 国立民族学博物館 上人からの考察—	
16:00	D-33	新たな他者とエスニシティ —広東省汕尾における香港在住者らの清明節の 稲澤 努 東北大学大学院環境科学研究科 事例から—	

5月31日(日) E会場 3階 会議室1・2 (72名収容)

8:30	受付		
9:00 E-22	グアテマラにおけるマヤ先住民表象のダイナミズム	池田 光穂	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
9:20 E-23	パナマにおける権利主体としての先住民の動向	近藤 宏	立命館大学大学院先端総合学術研究科
9:40 E-24	先住民は市民か? —真実和解委員会、先住民、人権のグローバル化—	細谷 広美	成蹊大学文学部
10:05 E-25	イヌイト・アートの歴史的展開と現状 —滑石彫刻と版画を中心に—	岸上 伸啓	国立民族学博物館・総合研究大学院大学
10:25 E-26	カナダ北西海岸に存在するトーテム・ポールの意義 —過去から現在まで—	齋藤 和枝	
10:45 E-27	動物霊と魔女の薬 —カナダ、ユーコン準州の先住民カスカの宗教観と活動領域—	山口 未花子	北海道大学
11:10 E-28	[発表辞退] ハイチ移民作家とモントリオールのハイチ人コミュニティ	荒井 芳廣	大妻女子大学
11:30 E-29	オリエントとしての米国南西部と先住民	水谷 裕佳	上智大学イペロアメリカ研究所
11:50 E-30	アメリカ合衆国における禅の受容と変容 —テキストからみるZenの拡散—	坂本 祐輔	早稲田大学

12:10-13:10	昼食		
13:10-15:15	総会・受賞講演(1階 大ホール)		

15:20 E-31	シリアにおけるイラク難民の問題 —イラク戦争言説の盲点—	佐藤 紀子	釜慶大学国際地域学部, 大韓民国
15:40 E-32	軍事力の展示 —日本の航空ショーを事例として—	福西 加代子	京都大学大学院
16:00 E-33	示威行動の文化とその表現型式 —サウンドデモにおける祝祭的次元についての考察から—	出口 雅敏	早稲田大学人間総合研究センター
16:25 E-34	ローカルな「平和」をめぐる言説 —広島とカタルーニャ・サダコ学園を事例として—	麓 侑佳	広島大学大学院 総合科学研究科
16:45 E-35	暴力の記憶を語ること —広島原爆被爆者による「証言」活動を事例として—	根本 雅也	一橋大学大学院社会学研究科

5月31日(日) F会場 3階 会議室3・4 (72名収容)

8:30	受付		
9:00 F-22	現代タイにおける「社会のため」の仕事と僧侶間関係の構築 —「北タイ・コミュ ニティ開発僧ネットワーク」の事例より—	岡部 真由美	総合研究大学院大学・文化科学 研究科
9:20 F-23	「もらっても親しくなるな」 —贈与論からみた上座仏教の出家者・在家者関係—	藏本 龍介	東京大学総合文化研究科
9:40 F-24	共有される精霊世界 —ラオス山地民の知と信—	徳安 祐子	九州大学大学院人間環境学府
10:05 F-25	精霊と毒との接触 —北タイ農村における患いと治療—	飯田 淳子	川崎医療福祉大学
10:25 F-26	<i>[発表辞退]</i> 儀礼における調和と対立 —北タイ・伝統派ラフの新米祭より—	西本 陽一	金沢大学
10:45 F-27	ラップノーン —タイの大学における学科別イニシエーションの継承をめぐって—	小川 絵美子	首都大学東京大学院 人文科学 研究科
11:10 F-28	北タイ民間治療師ネットワークにおける治療師のアイデンティティ	古谷 伸子	大谷大学
11:30 F-29	ラオス低地農村部における終末期ケア —その基盤としての親子関係とその 世代的变化—	岩佐 光広	国立民族学博物館
11:50 F-30	人と人とのつながり —北部タイ・HIV/AIDS感染者のハイブリッド・ロマンス—	日野 智豪	上智大学アジア文化研究所

5月31日(日) G会場 3階 銀杏 (90名収容)

8:30	受付		
9:00 G-22	漁村の高齢者とその役割 —漁村の高齢者が働く意味—	齋藤 典子	名古屋大学大学院文学研究科
9:20 G-23	[発表辞退] 高齢者の生活 —毎年ハワイに戻ってくる日本の高齢者に見る新しい高齢者観—	千崎 香澄	首都大学東京大学院人文科学研究科博士後期課程
9:40 G-24	高齢者福祉政策における「生きがい」論 —生きがい推進サービスにおける「生きがいの身体化」について—	菅沼 文乃	南山大学大学院人間文化研究科人類学専攻
10:05 G-25	介護保険制度と生—権力 —増大する老いのリスク—	福井 栄二郎	島根大学
10:25 G-26	老いる身体の処方箋 —治療行為の差し控えにみる身体とのつきあい方—	後藤 晴子	九州大学大学院 人間環境学府
10:45 G-27	病気の相応:糖尿病とストレス —東京のセルフヘルプグループの事例から—	モハーチ ゲルゲ	東京大学大学院
11:10 G-28	「アール・ブリュット／アウトサイダー・アート」をこえて —現代日本における障害のある人びとの芸術活動から—	中谷 和人	京都大学大学院人間・環境学研究科
11:30 G-29	ケアと共同性の人類学 —ピアサポーターをめぐる「応援している」という取り組み—	浮ヶ谷 幸代	相模女子大学
11:50 G-30	日本における精神障害者のコミュニケーション技法の体得プロセスについての考察 —北海道浦河べてるの家の事例より—	間宮 郁子	国立障害者リハビリテーションセンター

5月31日(日) H会場 2階 小ホール (200名収容)

8:30	受付		
10:05 12:10	【分科会】 工芸のグローバル化、芸術のローカル化 【代表者】 窪田 幸子		
H-25	趣旨説明	窪田 幸子	広島大学大学院総合科学研究科
H-26	グローバル化するアボリジニの絵画	窪田 幸子	広島大学大学院総合科学研究科
H-27	台湾の民族間関係の脈絡における創作物のベクトル	野林 厚志	国立民族学博物館
H-28	インドネシアの伝統染織を着ることと使うこと —「文化横断的消費」をめぐる考察—	中谷 文美	岡山大学大学院社会文化科学研究科
H-29	なぜ芸術の人類学ではなく、工芸の人類学なのか？	松井 健	東京大学東洋文化研究所

10-13:10	昼食		
10-15:15	総会・受賞講演(1階 大ホール)		

15:20 17:25	【分科会】 グローバル化時代の外国人労働者とホームランド —デカセギ・ブラジル人の事例— 【代表者】 三田 千代子		
H-31	趣旨説明	三田 千代子	上智大学
H-32	在日ブラジル人の本国宛郷里送金の概要 —在日ブラジルの銀行の競争と成功例としての本国宛郷里送金—	松井 謙一郎	国際通貨研究所
H-33	デカセギ送出地バストスの社会・経済生活の変化	三田 千代子	上智大学
H-34	デカセギによる教育機能の変容 —ブラジル日系社会と在日ブラジル人社会の調査を通して—	山ノ内 裕子	関西大学
H-35	ブラジル人学校におけるデカセギ子弟のブラジル文化の習得過程	渡会 環	上智大学
H-36	移民第二世代による「ホームランド」の選択	拝野 寿美子	神田外語大学

5月31日(日) I会場 1階 大ホール (1006名収容)

8:30		受付	
10:05 12:10	【分科会】 人類学的実践のフィールドをひろげる 【代表者】 金谷 美和		
I-25	趣旨説明	金谷 美和	国立民族学博物館
I-26	人類学者が開発を展示すること —展示制作というフィールド—	金谷 美和	国立民族学博物館
I-27	美術館における人類学的実践 —美術にまつわる文化と行政組織文化の間で 五十嵐 理奈—		福岡アジア美術館
I-28	学部教育における人類学 —フィールドワーク教育を中心とした「人類学的知」のカリキュラム— 佐藤 知久		京都文教大学
I-29	人類学者による多文化ソーシャルワーク —外国人女性のための多文化共生 フォーラムを事例に— 李 仁子		東北大学
I-30	出産前後の文化と医療を考える —フィリピン華人、北タイ華人、そして自己の 身体を事例として— 王 柳蘭		京都大学

12:10-13:10		昼食	
13:10-15:15		総会・受賞講演(1階 大ホール)	

15:20 17:25	【分科会】 人類学的方法はグローバリゼーションを穿ちうるか？ 【代表者】 川田 牧人		
I-31	趣旨説明	川田 牧人	中京大学
I-32	微細なグローバリゼーション —東アフリカ・ケニアの事例—	湖中 真哉	静岡県立大学
I-33	ローカルなものの終焉 —在地技術と文化伝承の相転移からみて—	飯田 卓	国立民族学博物館
I-34	ポスト世俗化社会における人類学的方法 —多元主義的文化相対主義の可能性—	川田 牧人	中京大学
I-35	<知識>に抗する<仕事> —グローバリゼーションを超える想像力—	大村 敬一	大阪大学
I-36	複数のグローバリゼーションに関する人類学的試論	床呂 郁哉	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所